

with Dignity

金城学院の明日を見つめる [ウイズ・デイグニティ]



インタビュー

薬学部開設にあたって
薬学部 学部長予定者

片山 肇

特集

海外留学体験記

大学・高等学校・中学校

◎クローズ・アップ
現代文化学部 教授
小野 知洋

幼稚園 園長
加納 眞知子

◎金城学院ホット・ニュース

◎金城学院トピックス



学校法人 金城学院
発行者 / 金城学院報編集委員会
金城学院報通巻第74号
発行 / 平成16年12月1日
名古屋市守山区大森二丁目1723番地
TEL.052-798-0180

INTERVIEW

◎インタビュー／薬学部開設にあたって

来年4月、大学に待望の薬学部が誕生します。
これからの薬剤師は、患者さんの心の悩みを理解し、患者さんや他の医療スタッフと円滑に意思疎通することが不可欠。女子総合大学としての特色を活かし、「こころ」と「コミュニケーション」をキーワードにした新しい薬学教育について学部長に就任予定の片山先生に薬学部の特長と理念を伺いました。

高いコミュニケーション能力を持ち
患者さんの心情に配慮できる
豊かな人間性を備えた
薬学のプロフェッショナルを育成します。

金城学院大学薬学部 学部長予定者
片山 肇 教授

プロフィール

1964年名古屋市立大学薬学部卒業。69年京都大学大学院薬学研究科博士課程単位修得退学。同年薬学博士（京都大学）。その後、アルバータ大学・シャブールーク大学・パーゼル大学に留学。77年新潟薬科大助教授、83年同大学薬学部教授。同大学大学院教授。今年度より金城学院大学教授。2005年4月金城学院大学薬学部開設に伴い、同部長に就任予定。

金城学院大学がめざす薬学教育はどのようなものですか。

金城学院大学薬学部は、薬学ジェネラリスト、すなわちチーム医療に貢献し、情報に明るく、高いコミュニケーション能力を持って、栄養・環境に明るく、人の心がわかる薬剤師の育成を目標としています。

医療や調剤の現場では、教科書に解決方法が載っていない問題が発生しますので、未知の問題を主体的に解決する能力を身につけるのは極めて重要なことです。そこで本学薬学部では、「問題解決型教育」方法を採用して、1年次に薬学PBL（Problem-Based Learning）を、1年次から3年次までに薬学セミナーを学習します。これらの科目は教員1名に対して学生10名程度の少人数で実施され、学生自らが疑問点・問題点を発見し、自ら調査、研究して解決する体験型の授業です。教員は学生に必要なアドバイスはしますが、最初から解決方法を教えることはありません。解決方法は学生が見つけたのです。



この体験によって、学生は医療や調剤の現場で実際に起きるさまざまな問題を解決できる能力を身につけます。こうした問題解決能力を身につけることは、薬剤師国家試験の合格にも良い影響を与えるでしょう。薬学部生にとって国家試験は一番の「問題」だからです。

最近では、医師と専門的医療スタッフが一体となって治療にあたる「チーム医療」が脚光を浴び、医師と対等の立場で接することができる医薬品のスペシャリストが求められているなど、これまで以上に薬剤師の活躍の場が増えてきました。

この状況の中、問題解決能力を持った薬剤師の輩出は、時代の要請となっているのです。

なお、薬学部のパンフレットでは、薬剤師国家試験100%合格プログラムを紹介していますが、合格そのものが最終目的ではないことをご理解いただきたいところです。その真意は、国家試験合格は学生が問題解決能力を備えた証しであり、単なる通過点であるということなのです。

キリスト教の精神に基づく女子総合大学の金城学院大学ならではの、という講義はありますか。

薬剤師は、日々新たな薬品を理解する地道な努力が求められるので、真面目な人が多い女性に向いている職業です。また、病人という弱者にソフトに接する必要性を考えると、こころの教育を大切にしている本学で薬学教育を行うのは大きな意味があると思います。さらに、本学薬学部では、サプリメントや化粧品などについての授業も予定されています。これからは、薬剤師にも医薬品の枠を超えて生活の質(Quality Of Life)の向上への寄与が求められることが予想されるからです。

また、3年次の実務実習の前に行われる「ホワイトコート・セレモニー」も本学薬学部の大きな特長です。このセレモニーは実務実習ができる力量を持つ証しとして、チャペルで白衣(ホワイトコート)を授与するという本学独自の儀式です。実習を前にして、医薬を通じて人の生命、健康に貢献するという薬剤師の使命とキリスト教精神について学生が認識を新たにできる良い機会となるでしょう。



薬学部のための新しい校舎も建築中ですね。

薬学部の新設にあわせて、地下2階地上4階の新校舎が誕生します。最新の研究・教育設備を備えたこの新校舎は、模擬病棟、模擬保険薬局が設置されているのが大きな特長です。ここで事前に基礎訓練をすることで、病院と調剤薬局での合計6週間の実務実習がより有意義なものとなるはずです。

また、薬学の学習の中には、患者さんの薬物血中濃度の測定が必要になるものがあります。そのためのTDM(Therapeutic Drug Monitoring 薬物治療モニタリング)室も最新のものを用意しています。

金城学院大学薬学部をめざす生徒にメッセージをいただけませんか。

薬学は、人類の命と健康、ひいては平和にも貢献できる崇高な学問です。さらに、薬剤師となれば、独立開業するだけでなく病院、行政、食品メーカーなど、活躍の分野は幅広くあります。興味のある方は、ぜひ薬学の道に進んでいただきたいと思います。

もっとも、良い薬剤師になるためには、薬学の専門的知識・技術が備わっているだけでは不十分です。患者さんや他の医療専門家と上手にコミュニケーションが取れるなど、人としての総合的な能力が必要なのです。基本的な人間性が問われていることを忘れずに、人間として成長する努力を怠らない気概を持ち続けてほしいと思います。



海外留学体験記

大学

自分を表現することの大切さを学んだアメリカ留学

文学部英語英米文化学科3年
磯部 仁美さん



私は8ヶ月間、アメリカのワシントン州スポケーンに留学していました。最初の3ヶ月はゴンザガ大学で、英語で授業を受けるのに必要な語学力をつけるためのESL (English for Second Language) の授業を受けました。

ゴンザガ大学で英語力を高めた後、ウィットワース大学に移りました。私は国際関係の授業を受講したのですが、最初は先生の話が聞き取れないし、毎日たくさんの宿題が出るのでとにかく大変！毎日図書館に缶詰になって勉強していました。でも、現地で友達になった多くの学生と互いに教え合いながら一緒に勉強をするようになると、良く理解できるようになり、積極的に授業に取り組みました。勉強

以外では、アジア出身の学生と親しくなれたことが良かったです。アジアに対するそれまでの一面的な見方が払拭され、アジアの国々をもっと知りたいと思うようになりました。

ウィットワース大学では勉強がとても忙しかったのですが、各国の文化を紹介するワールドパーティーがあり、日本人学生でダンスを踊りました。このダンスをタレントショーでも披露したら1位を取り、なんと賞金250ドルをGetしました！また、あまり観光もできませんでしたが、感謝祭の休みを使ってシアトルに行きました。フレンドシップファミリーと一緒に行ったのですが、ホームシックにならないようにと日本食レストラン

で食事をするなど気を遣っていたことは本当に感謝しています。シアトルでは「イチロー」 という寿司メニューもあったほどイチロー人気がすごかったのが印象に残っています。

8ヶ月のアメリカ留学で学んだことは、意思表示の大切さです。自分から積極的に行動すれば悩みも乗り越えられます。黙っていても、何も解決しないのです。さらに、苦しくても勉強を重ねて両大学の課程を修了できたことで、最後までやり遂げる力を身につけることができました。

今後は、英語力を落とさないように努力しながら、通訳や旅行関係など外国と関われる仕事に就く夢を実現したいと考えています。



寮でのサヨナラパーティー



ゴンザガESLのクラスメイトと



ルームメイトの家族と日本食レストランで



感謝祭の夕食会



タレントショーで1位

高等学校

アメリカ語学研修旅行 エカード大学 3年 森 純子 さん

最初は英会話がとても心配でした。英語に苦手意識を持つ私が、エカード大学でアメリカ人の先生方に話かけることは本当に勇気がいりました。でも先生方が、私の英語を熱心に聞いてくださるのがうれしく、その後はだんだんと英語が話せるようになり



エカード大学での授業風景

ました。恥ずかしがらず積極的に話すことが大切なのだと実感しました。また、授業以外にクルージングや遊園地にも連れていっていただき、感謝しています。また、コミュニティヴィジット（一日家庭訪問）には3回行きましたが、フロリダの方々はとて



ホストファミリーと

もフレンドリーでした。エカード大学最後の「ジャパンナイト」（さよならプログラム）では、英語で日本の劇を披露しました。最前列にコミュニティヴィジッ



トでお世話になった家族が見に来てくださり、感激しました。

エカード大学を離れてからは、ディズニーワールドやニューヨークでミュージカルの鑑賞をしましたが、その頃には英語が通じ、理解できるようになっていたことがうれしかったです。大切な出会いや体験ができたこのアメリカ語学研修は、本当に素晴らしいものでした。アメリカで出会った方々と再会できるように、これからも英語の勉強を続けたいと思っています。

中学校

オーストラリア語学研修旅行 メントン校 3年 西岡 綾 さん



今回の研修旅行は私にとって初めての海外で、しかも初めて家から離れる経験だったので、オーストラリアへ向かうフライトの間とても緊張していました。しかし、メントンに到着してからは、楽しくて充実した毎日が私を待っていました。学校ではモリッシー先生が英語だけでなく、生活や文化を丁寧に教えてくださったので、オーストラリアについての理解が深まりました。英語でコンピュータや料理を習ったのもとても興味深かったです。

ホストファミリーは温かく私を迎え入れてくださったので、緊張や不安も吹き飛びました。ホストファーザーはいつも冗談をいって私を笑わせ、ホストマザーは料理上手で、おいしく食事をいただくことができました。同い年のホストシスター、ロージーはとても行動的で、トロンボーンの演奏とダンスに夢中です。彼女は私をいろいろな場所につれていってくれました。なかでも特に印象深かったのが、フットボールの試合



ホストファミリーと

です。フットボールはオーストラリアで最も人気があると面白いスポーツですが、日本で見られないのが残念です。

この研修は、オーストラリアの文化に直接触れられる貴重な経験です。行けるチャンスがあれば、ぜひ行ったほうがいいと思います。私も将来またオーストラリアを訪れたいです。



授業風景

Close Up

先生のゼミはどのように行われているのですか。

私のゼミの基本的テーマは、生き物を対象にして、彼らがどんな情報をいかに利用しているのかを探ることです。研究対象の生き物に制限はありませんが、観察・研究がしやすいので、昆虫が主になっています。

ゼミの授業では、外に出かけて実際に生き物が活動する様子を体感することを重視しています。卒業論文作成の際も、文献調査ではなく実際に学生自らが対象となる生き物を採集、飼育

し、実験するように指導しています。その理由は、生き物を実際に見て「面白い」と感じることで、生物学のスタートだからです。高校で習う生物の授業が無味乾燥に感じることがあるとすれば、それはDNAなど実際に見たことのないものに興味が持てないことが一因ではないでしょうか。いきなり難しい専門知識を習うのではなく、生き物の行動を自分の目で実際に観察することで、学生の学問的興味が引き出されるのです。同時に、この経験によって身につくであろう主体的に問題を発見・解決

する能力は大学卒業後、企業に就職した際にも必ず役に立つはずです。

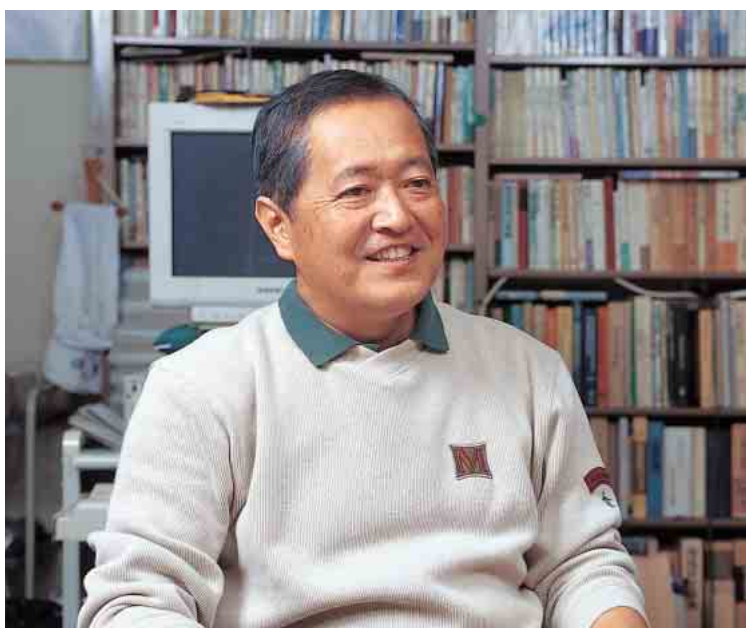
小幡緑地などキャンパス周辺には自然が豊かなので、ゼミの時間を利用して生き物の観察に出かけやすいのは幸いです。他のゼミからは「小野ゼミは散歩が多い」と思われているかもしれませんが... (笑)

情報と生き物の研究の関わりは何ですか。

たしかに「情報」と生き物は関係が無さそうにも思われます。しかし、生き物は互いに情報を

自然のなかで生き物と触れあうことで学生の学問的興味を引き出します。

小野先生の専門は、昆虫を中心とする生き物の情報利用です。その業績は論文として発表されているだけでなく、人気テレビ番組「トリビアの泉」でも紹介されました。ダンゴムシその他の昆虫の生態を熱心にご説明いただくなかで、先生の昆虫に対する愛情が伝わってきました。



金城学院大学 現代文化学部
情報文化学科

小野 知洋 教授

1948 年生まれ
名古屋大学大学院農学研究科博士課程満了
農学博士
研究課題 / アオマツムシの繁殖戦略と精子競争
チャハマキにおける性フェロモン抵抗性発達の機構
オカダンゴムシの歩行行動、擬死行動の適応的意義

発信し、受信しながら活動しています。例えば、昆虫の雌が雄を呼び寄せるために分泌するフェロモンも、雄に届かなければ意味がありません。フェロモンという情報を効率的に伝えるために雌は様々な工夫をしているはずで、情報を発信しているという意味において、生き物は情報学と基礎的なつながりがあります。現代情報技術の粋とも言えるロボットや人工知能のモデルが生き物であることも、生き物と情報の密接な関わりを表しています。

先生が昆虫の研究を始めようと思ったきっかけは何ですか。

もともと昆虫少年だった私は、大学進学時にも生物学の研究がしたいと考えていました。そこで農学部に入學し、大学院にも

進みました。大学院で、京都大学の石井先生による「昆虫のフェロモン」についての講義を聞いたのが、昆虫の研究を専門にするに至った直接のきっかけです。

昆虫は種類が多く、精巧で、行動にも多様性があります。非常に魅力的な研究対象ですね。

最近では、どんな研究をなさっているのですか。

これまでに、ジャガイモガやハッチョウトンボ、アオマツムシなどを研究してきましたが、6～7年前からダンゴムシの歩行行動を主に研究しています。ダンゴムシは、T字の交差点が連続する迷路を歩かせると、交差点ごとに左右交互に曲がって



いきます。この動きを交替性転向反応と呼びますが、なぜダンゴムシが交替性転向反応をするのかを探っているのです。いじめた後は交替制転向反応の精度が上がるので、その理由は敵から確実に逃げるためではないかと今は考えています。

このダンゴムシの交替性転向反応については、テレビ番組「トリビアの泉」でも取り上げられました。番組内で私が解説を加え、この研究室が紹介されたので、ダンゴムシの研究に対する世間の注目も少し上がったかもしれません（笑）。

小野先生はこんな人

とても優しくて面倒見の良い「永遠の昆虫少年」

小野先生はとにかく優しく、怒った姿を見たことがありません。

南知多ビーチランドや東山動物園へ動物の生態を観察に行けば、学生の素朴な疑問にもとても丁寧に答えてくださいます。加えてとってもダンディなので、ゼミ生以外の学生からも大人気です。

先生は虫が大好きです。特にダンゴムシを見るときは目の輝きかたが違います。その様子はまさに「永遠の昆虫少年」。その純粋さも、学生が先生を慕う理由になっています。

小野ゼミ3年生のみなさん



Close Up



金城学院幼稚園
加納 真知子 園長

金城学院大学 家政学部 児童学科卒業
金城学院幼稚園教諭、家庭にて育児に専念の後、
美園幼稚園産休代替教諭、金城学院幼稚園非常勤講師を
経て2001年から金城学院幼稚園園長
日本キリスト教団 愛知守山教会会員

積み重ねた教育の工夫と 保護者との緊密な連携で 「一人ひとりを大切にする保育」 を実践します。

加納先生は、金城学院幼稚園設立3年目より園児の保育に携わってこられました。
同幼稚園は様々な工夫を重ねることで、園児一人ひとりの個性を伸ばしています。
そこで加納先生に金城学院幼稚園の保育方針や特長について伺いました。

幼稚園設立のいきさつを
教えてください。

1972年1月26日に設立認可が降りました。初代園長は金城学院長でもあった戸苅近太郎先生でした。戸苅先生は世界的に著名な解剖学者、細胞学者でしたが、「幼児期は個体差が大きい時期なので、画一的な教育はしないように」と

おっしゃられていました。そこで「一人ひとりを大切にする保育」という基本的な保育観を実現するべく、金城学院幼稚園が設立されたのです。

設立1年目の入園者数は15名でしたが、3年後には園児数は113名となり、急速に規模が大きくなりました。この急成長の過程で保育者一人ひとりが理想的な保育方法を求めて試行錯誤し、皆で話し合い

ました。その中で採用されたのが「縦割り自由保育」です。これは、年齢によってクラス分けをするのではなく、異なった年齢の園児を混合してクラスを構成する教育です。縦割り保育の開始から27年が経過した現在では、5名のクラス担任の先生と、クラス担任を持たないフリーの先生3名で日々話し合い、カリキュラムを見直すなど改善を重ねながら子

どもによりそった保育を実践しています。

縦割り自由保育の長所を教えてください。

それは、子どもたちの自主性と社会性を引き出して「一人ひとりを大切にする保育」ができることです。年少の園児から見れば、年中、年長の園児は身近なお手本のようなもの。「自分も来年はああになりたい」と自ら思うので、効果的な教育ができるのです。また、年長の園児も自分の経験をもとに下の園児と関わるようになります。年中の園児は、小児化の進むなか、家庭で経験することが難しい中間の役割による心の育ちを体験できるのです。この長所ゆえに、今では近隣の幼稚園、保育園でも縦割り保育の導入がようやく進み始めました。

もっとも、火曜日と木曜日の午後には年齢別の横割りクラスも設定しています。横割りクラスでは、同年齢の友達との関わりと経験の幅を広げることができます。つまり縦割り保育と横割り保育が相乗作用して、子どもたちの主体的活動（遊び）をより豊かにしていることが最も大きな特長といえます。

縦割り自由保育以外の特長を教えてください。

キリスト教の精神にのっとった教育を行うことです。週に一度の礼拝の時間には、聖

話を聞いたり、食前などにお祈りをします。けんかをした時や、動物が死んだ時も保育者とお祈りをして、悲しい気持ちを神様にゆだねるのです。このなかで、園児たちは目に見えない神さまの愛（力）が自分たちを包んでいることを感じ、自分一人で生きていたのではないことに気付くとともに社会の中で多くの人と共に生きることを体感していきます。

さらに、幼稚園と保護者との連携が密接なことも特長です。当園では、通園時間を親子触れあいの機会にさせていただくことを狙いとして通園バスではなく、保護者の方々に園児を送り迎えしていただきます。そのため、毎日幼稚園に来ることによって、自然と保護者の方が保育者と語り合う機会が多くなるのです。父母の会が主催するバザーや講演会を行っていただくだけでなく、園庭整備にも保護者の方々に協力をいただいております。「いもほり母さん」「もちつき父さん」



保護者の協力のもと行われた「いもほり母さん」

など、園児たちを前にして実際の保育の現場に参加していただくことも少なくありません。幼稚園と緊密に関わっていただくことで保護者の方が自然に多くの園児と接することになりますが、これは保護者の方にとってもたいへんに良いことだと考えています。なぜなら、他の子どもの姿を見ることは、より正しい子ども理解が得られて、子育ての参考にさせていただけるからです。

このように、当園では保育者だけが一方的に園児を教えるわけではありません。園児、保護者、保育者がお互いに学び合い、支え合っています。金城学院幼稚園は、園児、保護者、保育者が共に成長する場所と言えるでしょう。



中学校・高等学校合同体育祭を開催

今年、5年に一度行われる中学校・高等学校合同体育祭の開催年。9月28日に愛知県体育館で盛大に行われました。

中学校・高等学校の一体感を醸成することを狙いとする合同体育祭は、5年に一度の開催ということもあり、本番前日に入念なりハーサルを行います。ところが、予行日の27日は天気が思わしくなく、午前中は雨に見舞われました。体育館の外での整列ができないなど、思うように進まない状況に気をもみましたが、何とか予定の練習を終了することができました。

合同体育祭当日の28日は幸いにも好天に恵まれました。総入場者数は約千名。ピーク時には立ち見をしなければならないほどの大変な盛況でした。生徒

たちも入場者の期待に応えて、素晴らしい演技・競技を見せてくれました。高校3年生と中学3年生は、選曲も振り付けも自ら行った創作ダンスを披露。創造性に満ちた豊かな感性が良く表現されていました。高校2年生と中学2年生はマスゲームを行いました。一人ひとりが持つ色鮮やかな布が一糸乱れぬ動きを見せ、会場を華やかな雰囲気でもみ込みました。高校1年生と中学1年生は元気いっぱいに阿波踊りをして、入場者の方方を沸かせてくれました。それ以外にも、白熱したレースを展開した対抗リレー、また特別参加

した幼稚園児の可愛らしい演技など、見応えのあるものばかり。入場者の方々も喜んでいただけたと思います。

企画運営側としては、多数の生徒が参加するこれらの競技を限られた時間内で手際よく終了させられるかが悩みどころでしたが、何とか無事に閉会式を迎えることができました。これも、多くの皆さまのご協力の賜物と感謝しております。ゴミの後始末の仕方など反省点もあり、各方面から助言をいただきました。これらを真摯に受けとめて、次回に役立てたいと思っています。



課外活動に取り組む生徒たちの真摯な姿

半世紀あまりも社会に奉仕を続ける「キャラバン隊」と、感謝と謙虚という誇りを繋ぐ「テニス部」の活動報告を紹介します。

キャラバン隊

「キャラバン隊」は、プロテスタント教会、幼稚園、保育園、老人ホームなどを訪問し、台本から人形まで全て手作りの人形劇を上演したり、ゲームをするといったボランティア活動を続けています。現在、隊員数は30人で、和気あいあいと活動しています。1年間の活動は春の校内合宿から始まり、人形劇の台本作りや、OGとの交流をします。夏休みには、人形劇やゲームを発表するための合宿を行います。劇を見て頂いた人の反応から人形劇やゲームの問題点を学びとり、それを解決して秋から

の活動を改善していきます。

キャラバン隊の活動で一番大切なのは「常に感謝の気持ちを忘れない」と、「誰かの支えなしには成立し得ない」ことです。常に周りの人たちに感謝の心を忘れず、「奉仕してあげる」ではなく、「奉仕させていただく」という気持ちで、これからも活動を続けていきたいと思っています。

再来年でキャラバン隊は結成50周年を迎え、2006年11月には50周年記念会（仮称）の開催を予定



しています。キャラバン隊に関わられた方で、当時の名簿や記録・写真などの資料をお持ちの方はぜひご連絡ください。ご協力をお願いいたします。

連絡先：宗教課長 鎌井 泰
電話.052-931-6236

テニス部

テニス部の歴史は、栄の民営コートまで毎日走って練習に通った56年前に始まります。創設以来、12回の全国大会出場、うち4年連続優勝の記録も持ち、「強いテニス部」という名声と伝統は、広くこの地に広がっています。

今年度も県総合体育大会においてシングルス、ダブルス、団体の完全優勝。県大会でも優勝を勝ち

取り、8月の全国団体選抜に出場し、全国という舞台でも3位という栄誉を手にすることができました。出場した選手も応援に回った部員もこの快挙に沸き、金城学院のテニス部に所属しているという誇りをますます深く胸に刻み込みました。

しかし、その誇りが驕りとならないよう戒めています。「感謝せよ。謙虚であれ」これこそがテニス部員に求められ続けてきた「誇り」です。テニスのチャンスを与えて

くださった家族に、活動を支えてくれた学校に、伝統の鎖を繋ぎ続けた先輩に...。全てに感謝し、白百合のごとく謙虚になることが、金城学院テニス部員としての誇りであり、プレーヤーとしての強さそのものであるはずで

す。ラケットを初めて手にする中1の生徒が、6年間で真の誇りを備えた頼もしい金城学院テニス部員となることを心待ちにする毎日です。



活気に満ちた部活動・同好会活動

設立30周年を迎える「ハープ・アンサンブル部」、朝鮮中高級学校を訪問した「東アジア同好会」、好成績を残した「陸上部」の活動を報告します。

ハープ・アンサンブル部

金城学院ハープ・アンサンブルは、本校の柱であるキリスト教教育のもとに誕生して30年目を迎えようとしています。高校では今年も名古屋第二赤十字病院でクリスマスコンサートに出演予定ですが、中学生部員は、高校でのそうした活動ができるように、日々勉学と両立させながら練習に励んでいます。毎年の文化祭、記念コンサートでの演奏はもちろんですが、やはり

教会や病院などでの演奏奉仕を通して、金城ハープの創設された精神が今も部員達の心の中に引き継がれているのです。

来年3月19日(土)には、栄光館にて「30周年記念コンサート」を予定しております。金城ハープ創設以来ご指導下さっている岡島多恵子先生と、先生の恩師であられ、日本のハープの普及・教育に貢献をされた



ヨセフ・モルナール先生にも賛助出演していただきます。皆様にご高聴いただくことが部員の何よりの励ましになります。ぜひお出かけください。



東アジア同好会

東アジア同好会は、今年の6月と9月の2回にわたって豊明市にある愛知朝鮮中高級学校を訪問しました。1回目は主に公開授業を見学しましたが、日本語・朝鮮語・英語の3つの言葉が教室で教えられているのを初めて観ることができました。2回目は生徒会役員との交流会に参加しました。簡単な自己紹介と意見交換を行った後に、チャンゴ(太鼓)など朝鮮楽器の演

奏の指導していただきました。基本的なリズムのパターンをいくつか練習しましたが、日本の和太鼓とは打ち方も異なり、最初は戸惑うばかりでしたが、皆で合わせて演奏していくうちに、自然とリズムがとれるようになりました。この成果を是非、公の場所で披露したいと思い、恵愛祭では展示発表と同時にチャンゴの演奏も行うことができました。今後も研究や練習を積み重ねながら、地道に活動を続けていきたいと思っています。



陸上同好会

今年で発足して6年となる中学校陸上部は正式にはまだ同好会ですが、実質的には部と同様毎日練習をし、試合に出場し、部員も15~20人程います。とにかく部員達は幼いときから走

ることが大好きで、校内の隅のほうで一生懸命走って練習しています。今年の私学祭にも走り幅跳びで3位に入賞できたことが励みになり、今みんな活気に満ちています。今後は短距離・長距離にも入賞できるよう頑張りたいと思います。



幼稚園を支え続ける「父母の会」の 善意と奉仕の心

30余年の歴史を誇る「父母の会バザー」は、父母の会の善意の心を象徴する行事です。今年も盛況のうちに終了することができました。



11月3日(水)に開催された父母の会バザーは、晴天に恵まれて大勢の人でにぎわいました。春から「バザーをみんなで楽しみたい」とバザー委員を中心に全会員が心を込めて準備をされてこられました。それにより、とても楽しく温かい一日を過ごすことができました。ゲームコーナーや子どもマーケット、木工コーナーでは高校生の卒園生とボランティア大学生の協力も得て、10時より14時まで、在園児も卒園児も思い切り遊びました。手作り品や献品のコーナーには、開場前からたくさんの方が並び、とても好評でした。カフェコーナーでは、会員有志によるケーキとともにおいしい

コーヒーをいただくことができました。お腹も心も大満足な時間を過ごした後は、テントの片付けなど、お父さん方の協力も得て無事に終了できました。このように多くの人々が善意の心一つにして、父母の会バザーという形になったことに、心からの感謝と感動を覚えます。

今年のバザーの目的は、キリスト教を主体とする奉仕の実践。

在園・卒園・地域の子どもと大人たちが共に楽しい一日を過ごす。(卒園生にとっての同窓会的役割)

準備期間も含めて父母の親睦を計る。
です。

これは父母の会のバザー当初から引き継がれてきたものです。30年前のバザーもお母さん方の手作り品と献品などのコーナー・業者のお店・ゲームコーナーとささやかでしたが、明道町で買ったお菓子を袋詰めしたさかなつりゲームや水風船つりなどの準備が楽しい思い出として今でも心に残っています。これからもなるべく無理をしない形で、引き継がれ、楽しい思い出の一つとなっていくことを願います。

金城学院幼稚園の父母の会の方々により培われ、引き継がれてきた心豊かな「支え合い(愛)」が、不安に満ちた世にあっても、主の光を受けて益々輝きを増しますようにと祈っています。



ハンドベルの清らかな音色に癒されます

「ハンドベルクワイア」は日本初のハンドベル演奏クラブ。
世界大会参加などの活動を称え、団体が学長表彰されました。
部長の鈴木寿果さんに今年度の活動についてお話を伺いました。



家政学部児童学科4年
鈴木 寿果さん

「ハンドベルクワイア」は、現在総勢29人。部員は皆熱心に取組んでおり、週2日の定期練習以外にも授業の合間やお昼休みなどに個人練習を積み重ねています。練習はつらいこともありますが、皆の息が合って一つひとつのハンドベルの清らかな音色がさらに美しいハーモニーを奏でることができた時の感動は言葉では言い表せないほどです。



今年度の大きな行事として、まず6月に中部フェスティバルがありました。会場はステージと客席が分かれていないアリーナ形式で、とても新鮮な気持ちで演奏ができました。8月には、カナダで行われたハンドベル世界大会に参加しました。イギリス、オーストラリア、カナダ、アメリカ、韓国、日本などから数多くのチームが参加していたので、様々な国の人々と接する良い機会になりました。また、観客の方は乗りが良く、反応を積極的に返していただけだったので、演奏して楽しかったです。世界大会が終わると、アメリカのニューヨークや、フロリダのディズニーワールドに行きました。ニューヨークでは9.11のグランド・ゼロに程近いサウス・ストリート・シーボートの屋外ステージにて Prayer



for World Peace (世界平和への祈り)をテーマとしたコンサートを行いました。ディズニーワールドでは、ディズニーでお馴染みの美女と野獣やリトルマーメイドなどのメドレー曲を演奏し、とても良い思い出になっています。

今後は、12月11日(土)に大学ランドルフ記念講堂でクリスマスコンサートを行います。各部員はより良い演奏ができるように一生懸命練習をしているところです。曲目は、ライオンキングやサウンドオブミュージックメドレー、ウインターワンダーランドなど、誰もが一度は聞いたことがある名曲を演奏します。楽しんでいただけるよう頑張りますので、ぜひ足をお運びください。

2004年度 課外活動学長表彰

11月29日(月)大学において
課外活動等で活動が顕著であった
個人及び団体を学長より表彰いたしました

[個人]9名

現代文化学部福祉社会学科4年 中田真実
全日本学生空手道選手権大会並びに東西対抗戦 個人組手 出場
人間科学部心理学科2年 服部友紀
和道会錬成会空手道競技大会 優勝
生活環境学部環境デザイン学科3年 豊島千瑛
21歳以下ラクロス女子日本代表選出
生活環境学部生活環境情報学科3年 本郷有里子
全日本大学女子野球連盟選抜チーム選出
文学部日本語日本文化学科1年 隅田絵里
全日本大学女子野球連盟選抜チーム選出
現代文化学部福祉社会学科4年 池中理恵
全日本学生選抜競技ダンス選手権大会 モダン部 第8位

文学部言語文化学科4年 加藤まりこ
旧七帝国大学学生舞踏選手権大会 優勝 他
家政学部児童学科4年 丹羽史子
毎日書道展 入選
文学部英文学科4年 山下郁代
名古屋ユネスコ協会でのボランティア活動

[団体]4団体 86名

アンサンブルフリーデン(15名)
本学礼拝及び大学クリスマスにて賛美演奏
クワイア(37名)
本学礼拝及び大学クリスマスにて賛美演奏
ハンドベルクワイア(29名)
世界大会参加及びVIPクラブ名古屋主催チャリティー
コンサート「クリスマスの夕べ」出演
ユースダイアローグ「愛・地球博市民プロジェクト」に
参加する学生の集合体の名称【5名】
愛・地球博市民プロジェクトに中心メンバーとして参加



Christmas Special Calender

金城学院大学

第15回 クリスマス
ハンドベルコンサート

出演 / 大学ハンドベルクワイア
 日時 / 12月11日(土)
 16:45 開場 17:30 開演
 場所 / 大学ランドルフ記念講堂
 曲目 / クリスマス・フェスティバル、
 花のワルツほか
 入場券 / 1,500円
 CN プレイガイド
 (TEL.052-968-0099)
 お問い合わせ / 平日9:30 ~ 17:00
 ハンドベルクワイア部室
 (TEL.080-3617-7644)
 未就学のお子さまの入場はお断りしております。

大学クリスマス礼拝

出演 /
 アンサンブル・フリーデン、クワイア、ハンドベルクワイア、クリスマス特別合唱団
 日時 / 12月16日(木) 17:00
 場所 / 大学ランドルフ記念講堂
 入場無料(会場に献金箱を設置させていただきます。)
 どなたでもご参加いただけます。



聖夜のミュージック

出演 / 大学クワイア
 日時 / 12月20日(月)・22日(水)
 20日 18:30、19:30
 22日 17:30、18:30、19:30
 場所 / 名古屋マリriottアソシアホテルロビー
 曲目 / クリスマスソングメドレー

「愛・地球博」支援事業
開催100日前
万博カウントダウンイベント

出演 / 大学ハンドベルクワイア
 日時 / 12月18日(土)
 15:00 イベント開演
 17:30 ハンドベルクワイア出演
 場所 /
 日進市野方三ツ池公園交流館
 主催 / 日進市
 曲目 / クリスマスソングメドレー
 入場無料

金城学院高等学校

キャロリング

出演 / 高校グリークラブ
 (中学グリークラブも出演します。)
 日時・場所 /
 12月11日(土)
 12:00、15:00、17:00
 中日ビル・1F エスカレーター
 12月22日(水)
 11:30、14:00
 松坂屋栄本店・南館オルガン広場
 このほか病院、老人ホームなどでのキャロリングも計画しています。

ハンドベルクワイア
定期演奏会

出演 / 高校ハンドベルクワイア
 (大学及び中学ハンドベルクワイアも賛助出演します。)
 日時・場所 /
 12月20日(月)
 17:30 開場、18:00 開演
 中電ホール
 入場無料

金城学院中学校

クリスマス・ハンドベル

ハンドベル演奏を各所で行います。
 出演 / 中学ハンドベルクワイア
 日時・場所 /
 12月12日(日)
 教団 桜山教会
 (礼拝奉仕とクリスマスコンサート)
 12月19日(日)
 明治村 13:00、14:00
 明治村入場券が必要です。
 12月20日(月)
 (高校定期演奏会賛助出演)
 12月23日(木)
 教団 名古屋教会 13:30
 (手をつなぐ親子クリスマス会)
 教団 名古屋西教会 17:30
 (キャンドルサービス)
 12月25日(土)
 改革派春日井教会 14:00



金城学院幼稚園

クリスマススタ押

日時 / 12月18日(土) 14:30
 場所 / 大学ランドルフ記念講堂
 プログラム /
 礼拝
 大学ハンドベルクワイア・
 ミニコンサート
 年長児キャロリング
 16:30 より名鉄瀬戸線大森金城学院前駅にて



写真は昨年のクリスマス賛美礼拝より。
幼稚園内のみの行事です。

柏木哲夫金城学院大学学長、「保健文化賞」を受賞

本年9月21日、第56回保健文化賞を、学長の柏木哲夫先生が受賞されました。同賞は、第一生命相互会社主催、厚生労働省、朝日新聞厚生文化事業団、NHK厚生文化事業団の後援で、毎年保健衛生の各分野で功績のある団体、個人に授与されるもの。柏木学長は、末期がん患者に対するホスピス・緩和ケアを我が国で初めて実践するとともに、その普及・発展及びケアの質の向上を目指した多面的な活動の実践に貢献し、これまでに2500人を超える患者をみとった実績が評価されて今回の受賞に至ったのです。

柏木学長は、1984年に勤務していた大阪府東淀川区の淀川キリスト教病院に日本で2番目のホスピス・緩和ケア棟を開設し、以来1993年までホスピス長、その後現在まで名誉ホスピス長を務められ、さらに2000年に設立された日本ホスピス・緩和ケア研究振興財団の理事長を務められています。今回の受賞は1994年にアメリカの死生学財団から贈られた日米医学功労賞、1999年に朝日新聞社から贈られた朝日社会福祉賞に続くものとなります。



プロフィール

1965年大阪大学医学部卒業、医学博士、人間科学博士
専門分野 / 精神医学、心身医学、末期医療
研究テーマ / ホスピス論、臨床ケア学、音楽療法
著書 / 「癒しのターミナルケア」(最新医学社) など

金城学院大学が「社会調査士」資格科目設置機関に認定されました

「社会調査士」とは2003年度に発足した新しい資格制度で、社会調査に関する基礎的な知識や技能、相応の応用力と倫理観を身につけていることを証明するものです。アンケートやインタビューの「技」を身につけて、卒業後のキャリアアップをはかります。現代文化学部国際社会学科と人間科学部心理学科社会心理学専攻で取得が可能です。東海地区では、現在5大学が設置機関に認定されていますが、女子大としては本学が唯一となります。

献金のお知らせ

毎年、各学校では献金を行い、各種団体を通じて福祉施設・病院・被災者の方などにお送りしております。今年は新潟県中越地震災害義援金としても寄付が予定されています。既に大学父母会から10万円を中日新聞社を通じて寄付いたしました。クリスマス献金など、まだ受付期間中のももございますので、ぜひご協力賜りますようお願い申し上げます。

2004年度

聖句標語

自分自身を聖別せよ。主は明日、あなたたちの中におどろくべきことを行われる ヨシュア記第3章5節

クリスマスの慰め

昔、アメリカ中西部を車で旅しました。ところがあるオートバイの全米規模の祭りがあり、数万人のモーターサイクリストで近隣の町々はごった返していました。必死で宿を探しましたが、どこに行っても「空いてないよ」と断られ、車中で夜を明かすという恐怖の経験をしました。この最悪の経験は、しかし、クリスマスの慰めを悟らせてくれる恵みの出来事となったのです。

イエスさまが生まれた夜も、町はごった返し、宿屋に空室はなく、イエスさまは馬小屋の飼い葉桶に寝かせられたのでした(ルカ2章)。ここにクリスマスのメッセージがあります。ある黒人教会で牧師が語りました。「私は昔から白人社

会の中で拒絶され続けてきたよ。君たちもそうだろう。拒絶されるのはつらいよなあ。でも、イエスさまもあの夜、どこにも泊まれなかったのだよ。イエスさまは拒絶されるつらさをよく知っておられるよ。それは私たちには本当に大きな慰めだ。」差別と拒絶に苦しむ自分たちの経験と馬小屋のイエスさまの経験が重なり合う時、クリスマスは最高に恵み深いものとなるのです。

イエスさまは馬小屋で生まれました。宿屋に泊まることのできない家族の一員として。イエスさまは、拒絶され、誰からも受け入れられない人々に寄り添い、その苦しみを共にされるのです。私たちも人生の様々な局面で拒絶や疎外に苦しみます。しかし、勇気を失ってはなりません。その苦しみの時こそ、イエスさまが私たちに最も近くおられる時なのです。このクリスマスの季節、イエスさまの慰めがみなさまの心に満ちあふれますように。
(大学文学部宗教主事 藤井 創)

[編集後記]

旧学院報から「with Dignity」に生まれ変わって、早や2年、第4号の発刊となりました。大学は2002年に4学部体制を発足させ、来年2005年の桜が咲き誇る頃には薬学部の誕生を得て5学部体制となります。そこで本号では、薬学部長予定者片山教授に「チーム医療に貢献し、人の心がわかる薬剤師の育成を目指している」ことなど、先生の静かな中にも、熱く堅き思いと意気込みを語っていただきました。

また大学・高校・中学から海外研修に行かれた方々の、「自分表現」、「勇気」、「緊張」の体験話など「海外研修」関係の特集しました。それぞれの体験がこれからの歩みの上に大いなる糧となることを願います。

本年は、台風、豪雨や地震など災害の多い年でした。被災された方々のご健康と一日も早い復興、そしてまた間もなくの新しい年が良き年でありますよう心よりお祈りいたします。

本誌「with Dignity」は、金城学院のホームページ(<http://www.kinjo-gakuin.jp/>)でもご覧いただけます。ご意見、ご感想をお寄せください。(また、現在お送りしております方で、購読中止を希望される方もホームページからご連絡ください。)